

平成25年7月30日(火)
平成25年度 第4回
大阪府河川整備審議会

参考
資料
4

石津川水系河川整備計画（原案） についての住民説明会

本説明資料は、大阪府河川室ホームページでも見るすることができます。
(アドレス http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/)

本日の説明会のポイントと流れ

① 河川整備計画とは

② 今後の治水対策について
(治水を河川から流域全体へ)

③ 石津川流域の現状について

④ これからの石津川流域での取り組みについて

⑤ 洪水リスク図と防災情報について
(洪水リスク開示)

質疑・応答

①河川整備計画とは

【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

【河川整備基本方針とは】

○河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。
石津川水系では、H14.4月に河川整備基本方針を策定。

① 河川整備計画とは

河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（原案）

学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会（および治水部会など）において審議

本日

住民の皆様からのご意見

内容の説明およびご意見の聴取（後日 郵送、ネット、FAX 等でも）

河川整備計画（原案）

住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（案）

地方公共団体の長の意見

国土交通省の同意・認可

策定

河川整備計画

河川整備計画とは

河川整備計画とは、河川整備基本方針に基づき、今後概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理における具体的な目標や内容を示すもの。

河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針を治水・利水・環境について定めるもの。

② 今後の治水対策について（治水を河川から流域全体へ）

今後の治水対策

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに、「防ぐ」施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

将来目標（長期計画）

府管理の全河川について、時間雨量 80ミリ程度※¹の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

※¹ 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

当面の治水目標

【今後20～30年の当面の治水目標】

時間雨量50ミリ程度※²の降雨で床下浸水を発生させない。

かつ、少なくとも時間雨量65ミリ程度※³の降雨で床上浸水を発生させない。

※² 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※³ 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

② 今後の治水対策について（治水を河川から流域全体へ）

地先の危険度
低減に向けた

地先の危険度低減の考え方

流出抑制

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。
（家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など）

凌ぐ

治水施設の保全・整備

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。
（河川改修・堆積土砂除去など）

防ぐ

耐水型都市づくり

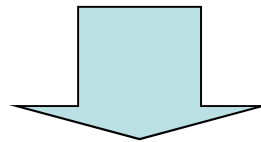
河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。
（家屋の耐水化・高床化などの促進）

凌ぐ

情報伝達・避難

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。
（洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくり
の促進など）

逃げる



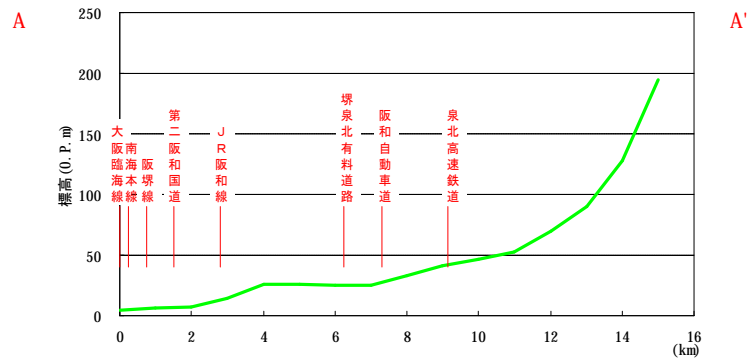
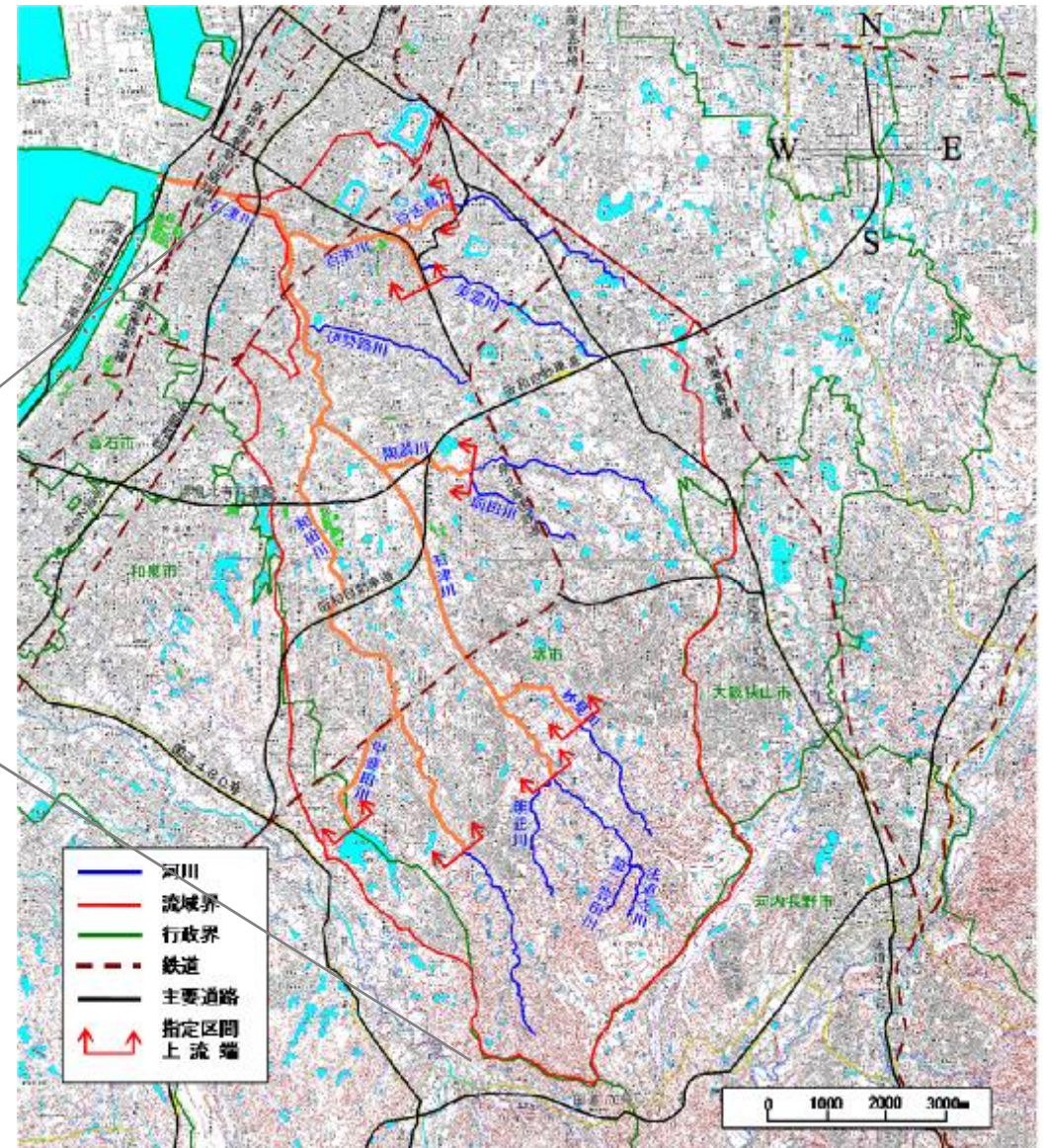
「逃げる」、「凌ぐ」、「防ぐ」施策を
効果的・効率的に組み合わせ、地先の危険度を低減

③ 石津川流域の現状について

流域の概要

- Ⅰ 流域市町：堺市・大阪狭山市・和泉市
- Ⅰ 指定区間延長 30.5km
- Ⅰ 流域面積 78.0km²

河川名	延長 (km)	流域面積 (km ²)
石津川	13.0	78.0*
百済川	2.4	17.2*
百舌鳥川	1.2	7.9
和田川	8.4	19.1*
甲斐田川	2.1	4.1
陶器川	1.4	6.5
妙見川	2.0	5.0
合計	30.5	—



石津川流域

③ 石津川流域の現状について

河川の特徴

- Ⅰ 石津川河口部は高潮堤防
- Ⅰ 石津川下流部は築堤、中上流部及び和田川、百済川は掘り込み河道
- Ⅰ 石津川水系全区間において単断面のブロック積み護岸
- Ⅰ 石津川の上流からの土砂供給が少なく、供給される土砂の細粒分が多いため、洪水により土砂が河口部まで流され、中下流部において河床低下が発生

高潮区間
堆積土砂区間

老朽化・河床低下
が著しい区間

時間雨量50mm程度を超える規模の降雨により破堤・越水の恐れがあり、床上浸水以上の被害が発生する箇所

- 流域界
- 二級河川
- 準用河川
- 普通河川
- 鉄道
- 主要道路
- 行政界

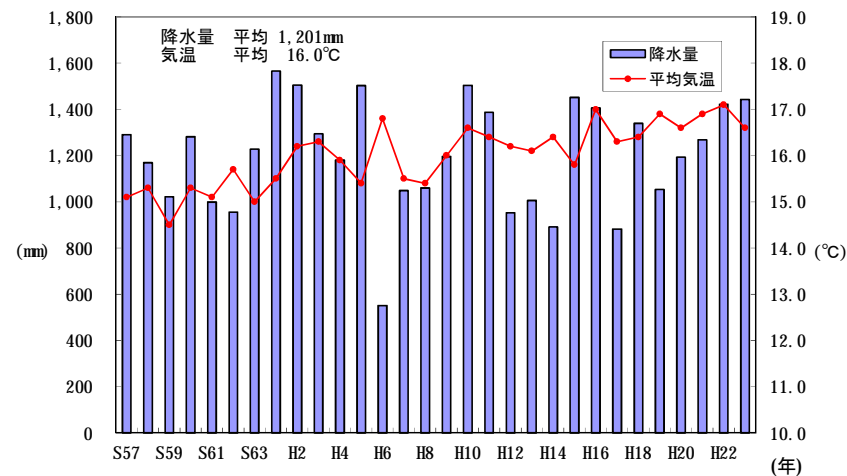
流域には350箇所のため池が点在



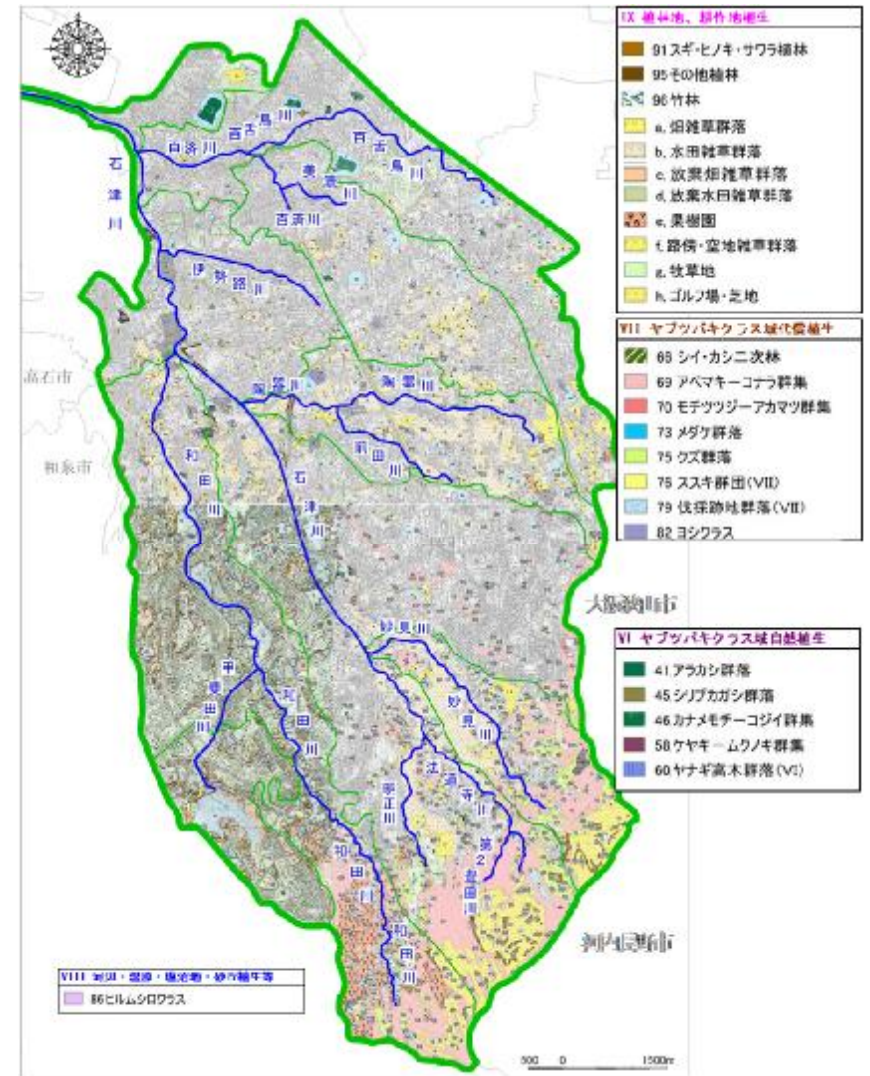
③ 石津川流域の現状について

自然環境特性

- I 気候は瀬戸内海式気候（年平均降水量が少ない）
- I 流域内にはため池が350箇所程度存在
- I 石津川上流部の丘陵地にはアベマキ・コナラ群集等、中流部では水田雑草群落、和田川沿いには水田雑草群落が広がり都市部としては比較的豊かな植生
- I 魚類：ボラ・マハゼ（石津川下流部感潮域）・フナ属・アユ・ウナギ・カワアナゴ等（石津川河口部、百済川下流部）、オオクチバス・ブルーギル等（中流部）、コイ・メダカ・ドジョウ等（石津川中上流部、和田川）、ウナギ・コイ・トウヨシノボリ等（百済側上流部）
- I 底生生物：ユスリカ類・ミズミズ類（石津川河口部、百済川下流部）、カゲロウ、トビケラ等（石津川中上流部、和田川）



年降水量と年平均気温の推移（堺観測所）

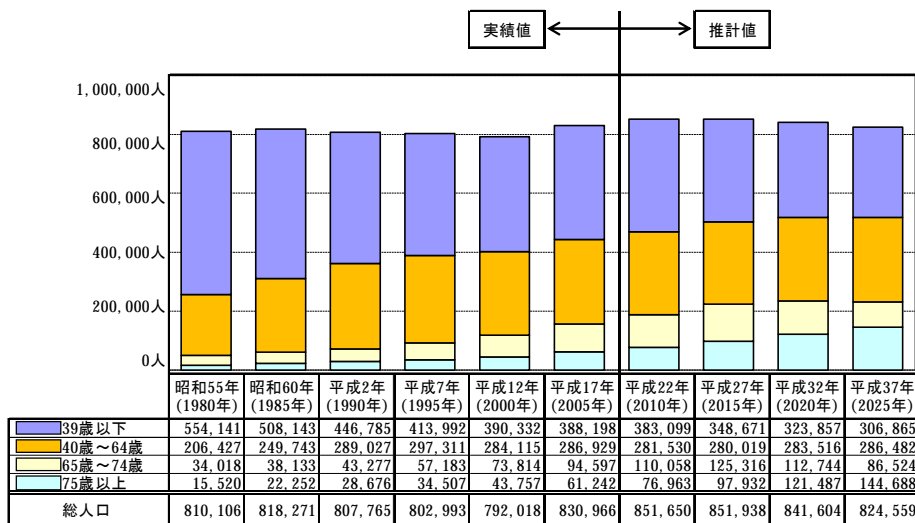


現存植生分布図

③ 石津川流域の現状について

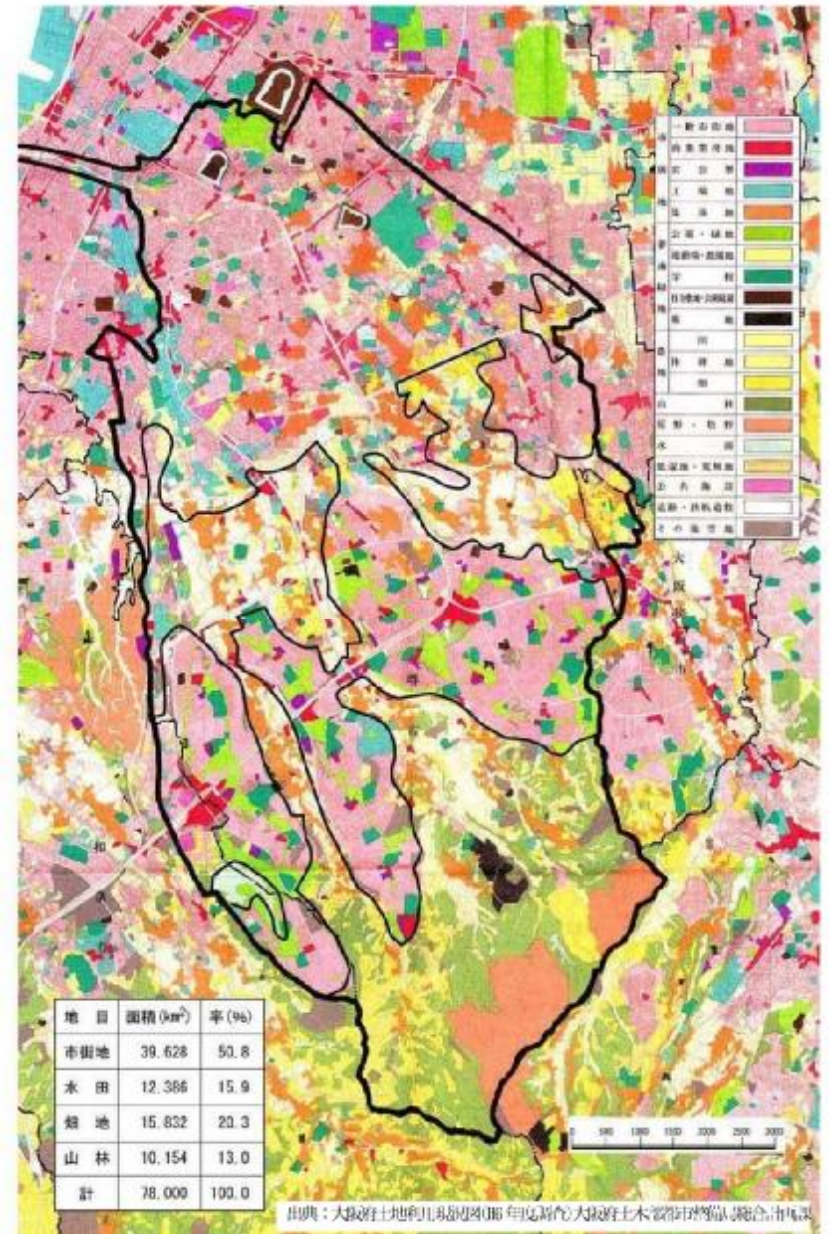
社会環境特性

- 堺市の約54%にあたる約46万人が流域内に居住（平成24年1月時点）
- 将来人口は平成27年までは一旦上昇し、その後、徐々に減少傾向を示すと予測（堺市推計）
- 市街地51%、森林・荒地13%、農地（水田16%、畑地20%）
- 下流部は、大阪府内第2の人口を有する堺市の中心市街地
- 住宅地は鉄道駅周辺や古くからの集落周辺を中心に広がり、沿川には民家が連なっている。
- 上・中流部の丘陵地では大規模開発による泉北ニュータウンが広がっている。
- 農地や森林・荒地等は石津川・和田川の中上流部の沿川に広がっている。
- 商業用地は鉄道駅周辺に集まっている。



(出典：堺市高齢者福祉計画・介護保険事業計画)

堺市の人口の推移と将来推計



出典：大阪府土地利用現況調査2016年度調査結果大阪府土木部都市計画部調査課作成

土地利用状況図（H6年度調査結果）

③ 石津川流域の現状について

歴史・文化・観光

- 下流部には、日本最大の方後円墳として有名な大仙陵古墳を含む我が国
有数の古墳群である百舌鳥古墳群が存在する。
- 上流部の丘陵地では須恵器の窯跡群の遺跡が多数見つかっている
- 奈良方面へ通じる竹内街道、長尾街道、紀伊方面へ通じる参詣道路であ
った西高野街道、熊野街道が通じ、この沿道には百舌鳥八幡宮、家原寺等著
名な古社寺が数多くある。



泉北考古資料館
出典：堺SAKAI観光マップ



百舌鳥八幡宮
出典：堺SAKAI観光マップ



土塔
出典：堺SAKAI観光マップ



ハーベストの丘
出典：goo地域



家原寺

番号	レクリエーション・観光・文化施設名
①	百舌鳥八幡宮
②	いたすけ古墳
③	大阪府立大学
④	にさんざい古墳
⑤	家原寺
⑥	土塔
⑦	多治速北売神社
⑧	泉北観光ハイキングコース
⑨	泉北考古資料館
⑩	桜井神社
⑪	堺市立鉢ヶ峰青少年キャンプ場
⑫	法道寺
⑬	ハーベストの丘



③ 石津川流域の現状について

治水の現状と課題

- Ⅰ 石津川水系の二級河川では時間雨量50mm程度の降雨に対応した改修が概成。
- Ⅰ 初期の改修から50年以上経過することから、護岸の老朽化が著しい箇所が多い。
- Ⅰ 洗掘による河床低下が発生している区間が点在。



①平成19年8月降雨による石津川の被災状況(宮本橋上流)



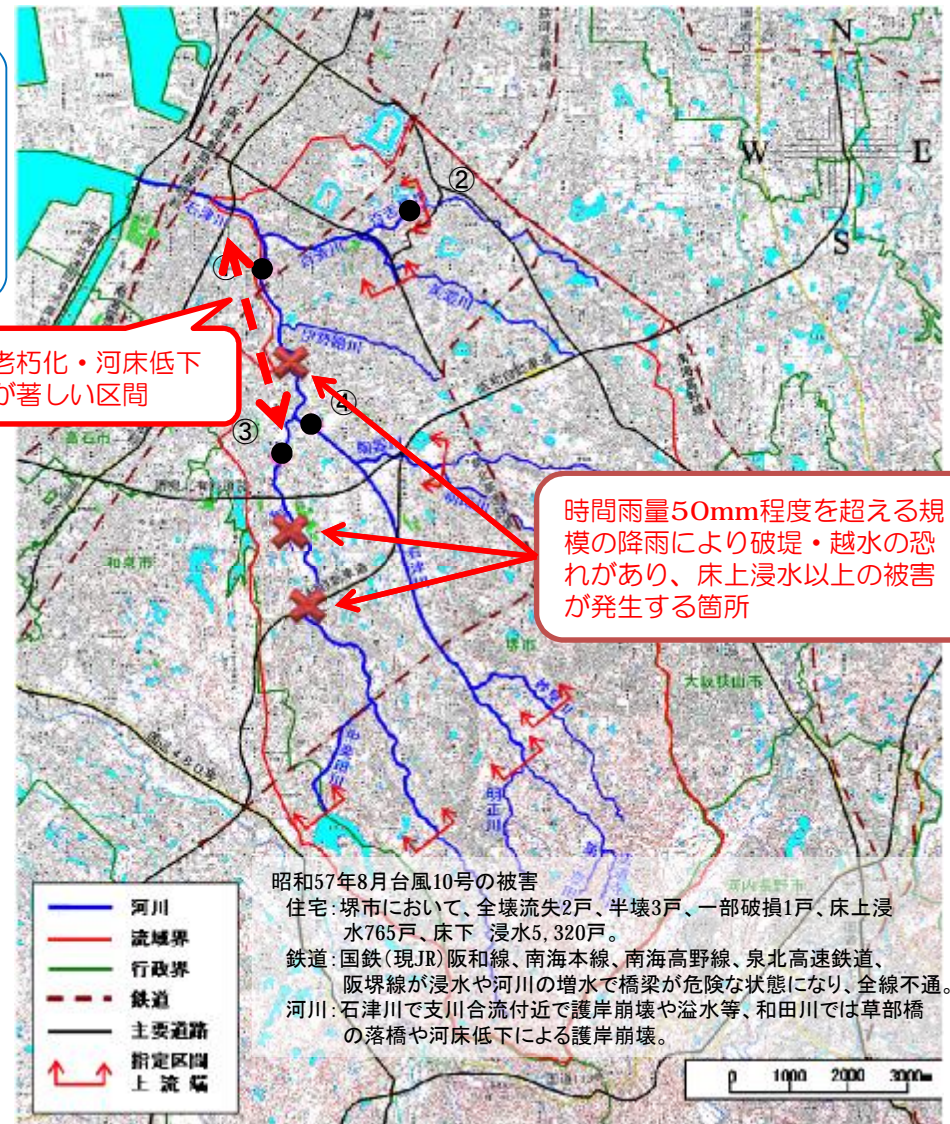
②平成16年5月降雨による百舌鳥川の被災状況(尾羽根橋上流)



③平成18年6月降雨による和田川の被災状況(草部橋下流)



④平成23年1月降雨による石津川の被災状況(万崎橋下流)



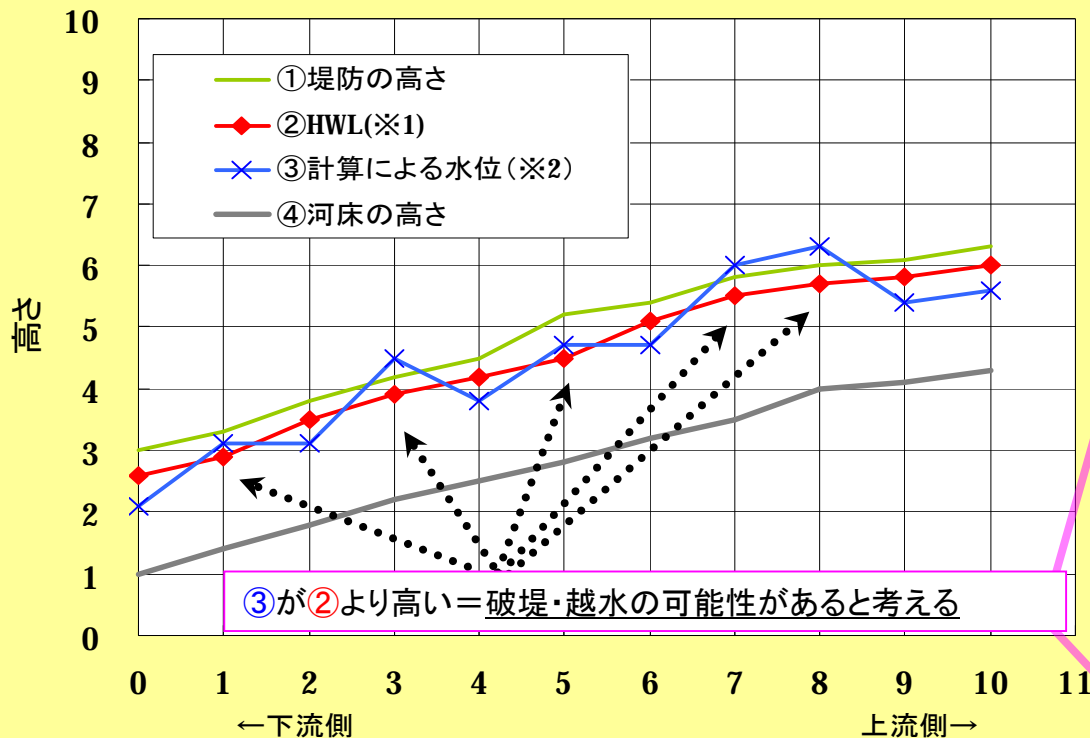
<課題>

- ▶ 時間雨量50ミリ程度を超える降雨により床上浸水以上の大きな被害が発生する恐れがあり、さらなる治水安全度の向上が必要。
- ▶ 部分的な補修ではなく、抜本的な対策が必要。

③ 石津川流域の現状について

破堤・越水の考え方

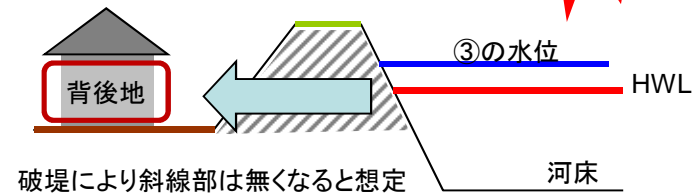
現況の河川における縦断的な高さの関係



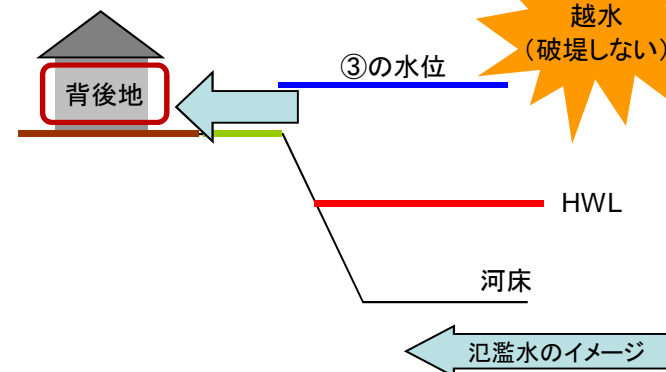
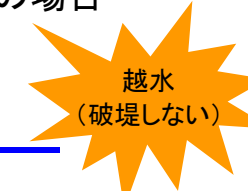
(※1) 堤防の機能上安全とされる水位

(※2) 越水のみを考慮した計算水位

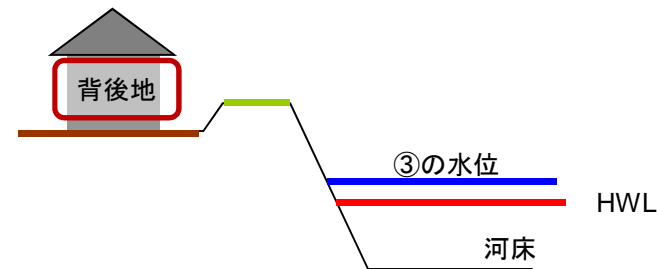
③の水位が背後地の地盤より高い



背後地の地盤が堤防の高さ以上の場合



③の水位が背後地の地盤より低い → 破堤しない



③ 石津川流域の現状について

河川利用及び河川環境の現状と課題（水質・水量）

- Ⅰ 石津川水系には多くの落差工や井堰が、生物の上下流の移動の妨げとなっている。
- Ⅰ 石津川の水環境基準はD類型であり、基準を満たしていない区間が存在。
- Ⅰ 和田川の水環境基準はC類型であり、環境基準を達成。
- Ⅰ 石津川水系全体では、下水道整備の普及、工場・事業所の社会活動状況の変化、法規制等により改善傾向にある。
- Ⅰ 石津川の和田川合流前の地点における流況は、平均濁水流量が $0.47\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量が $0.73\text{m}^3/\text{s}$ 。



<課題>

- ▶ 都市の貴重な水辺空間として多様な動植物の生息・生育環境の保全を図るための上下流域の連続性の確保。
- ▶ 水質の環境基準を満たしていない区間がある。
- ▶ 石津川水系全体では、水量が少ない。

③ 石津川流域の現状について

河川利用及び河川環境の現状と課題（空間利用）

- Ⅰ 堺市では河川空間を利用した地域活動が活発。
- Ⅰ 今後の石津川流域のあるべき姿について地域住民が主体となって意見交換を行う「石津川流域交流会議」を設立。
- Ⅰ アドプト・リバー・プログラムの認定団体は10団体。
- Ⅰ アドプト・リバー・陶器川では、清掃活動だけでなく、耕作の不法占拠の自主撤去や府民協働による川づくり。
- Ⅰ 陶器川流域の午池（うまいけ）を中心とした陶の里水系協議会による陶器川水系 水辺自然回廊づくり。
- Ⅰ 石津川中流部の泉北ニュータウンにおける地元ボランティアによる河川清掃。
- Ⅰ 百済川における地元小学校、NPO、堺市等と連携したヨシ植えなどによる水質改善などの環境学習。

No.	名称	河川名	団体名	協定締結日
1	アドプト・リバー・神石	二級河川 石津川	堺市立神石小学校	H15. 3.10
2	アドプト・リバー・東上野芝	二級河川 百舌鳥川	コスモス	H15.12. 3
3	アドプト・リバー・上野芝	二級河川 百済川	堺市立上野芝小学校	H18. 5.11
4	アドプト・リバー・毛穴町	二級河川 石津川	毛穴町内会 川まつり実行委員会	H19. 2.18
5	アドプト・リバー・陶器川	二級河川 陶器川	小阪西町自治会	H19. 3.22
6	アドプト・リバー・鴨一北	二級河川 甲斐田川	鴨一北ソフトボールクラブ	H19. 3.23
7	アドプト・リバー・鶴田町	二級河川 石津川	堺市鶴田町自治会 堺泉北ライオンズクラブ 市民ボランティアグループ「石津川に鮎を」	H19. 3.29
8	アドプト・リバー・八田西町2丁	二級河川 陶器川	八田荘西校区八田西町2丁自治会	H20.10.22
9	アドプト・リバー・美木多(檜尾)	二級河川 和田川	堺市美木多校区自治連合会・檜尾自治会	H21. 9.30
10	アドプト・リバー・山田1丁	二級河川 和田川	株式会社 島ノ江建設	H23.3.31



府民協働（川づくり）メイン会場の製作

<課題>

- ▶ 人と川とのつながりの確保
- ▶ 地域活動の継続

③ 石津川流域の現状について

河川利用及び河川環境の現状と課題（自然環境・景観）

- Ⅰ 石津川水系はコンクリートブロック護岸の単調な景観。
- Ⅰ 石津川下流部は過去の改修等により河畔林が亡失し植生は貧弱。
- Ⅰ 上流部は比較的豊かな植生。
- Ⅰ 河川内にはゴミが見られ景観を悪化。
- Ⅰ 石津川の河口部から中流部までの区間では、大阪府が実施するみどりの風促進区域に指定。
河川を基軸とした地域ぐるみの緑化を堺市とともに推進。
- Ⅰ 流域には350箇所のため池が点在。
ため池は降雨時における一時的な雨の貯留効果を有する。
- Ⅰ 大阪府農政部局では地域と協働で、ため池の利水と環境を合わせて整備するオアシス構想推進事業を光明池、菰池（こもいけ）・下池、中ノ池で実施。



川に降りられずゴミが溜まる



みどりの風の促進イメージ



オアシス構想推進事業にて
整備された親水空間



流域内のため池（菰池）

<課題>

- ▶ 河川空間を悪化させるゴミの投棄。
- ▶ 農地の減少に伴うため池の改廃。
- ▶ 流域全体の保水・遊水機能を維持するため大阪府及び堺市の農政部局と連携したため池の保全・活用が必要。

④ これからの石津川流域での取り組みについて

流域の将来像

総合計画（自由都市・堺 ルネサンス計画）

基本理念：“まちを変える” “暮らしを変える” “市政を変える” 新しい自由都市・堺 ルネサンス

- 南海・東南海地震をはじめとする大規模な災害などに備え、自治体相互の応援協定を締結する。
- 緊急交通路に架かる橋梁や災害時の避難所となる学校施設、住宅等の耐震補強を推進するとともに、ライフラインとしての上下水道管路の耐震化や臨海部での大規模地震対策施設の整備を促進する。
- 地域の防災力を強化し、災害時の被害拡大を防止するため、ハザードマップ（災害予測地図）の作成などにより、市民一人ひとりの防災意識の向上を図るとともに、自主防災組織の育成や救急体制の充実に取り組む。
- 緑化活動や水環境の改善、開発等に係る環境影響評価、市街化調整区域における農地・緑地の保全などに取り組む。

都市計画（堺市都市計画マスタープラン）

「活力あふれる都市」、「居住魅力のある都市」、「環境と共生する都市」、「安全で安心して暮らせる都市」を都市像として目指す。

- 下水道：公共用水域の水質改善、公共下水道の整備、下水再生水・雨水貯留浸透水の活用の検討
- 河川：狭間川、西除川、石津川、百舌鳥川の改修事業の促進、水量・水質、空間改善対策の実施



- Ⅰ 石津川流域では、多くのため池が点在していることを踏まえ、下流部から上流部までの連続した自然空間の軸となる河川整備を進め、ため池や農地、公園等と共に水と緑に親しみ文化にふれあう都市づくりを進める。
- Ⅰ また、河川・下水道の整備やため池等の流出抑制施設を活用した総合的な治水対策の推進により、都市の防災機能を高めるとともに、自助・共助・公助の連携のもと、洪水リスク表示図や地域版ハザードマップ等を活用した防災意識の高揚、自主防災組織活動の活性化による減災の都市づくりを進める。

④ これからの石津川流域での取り組みについて

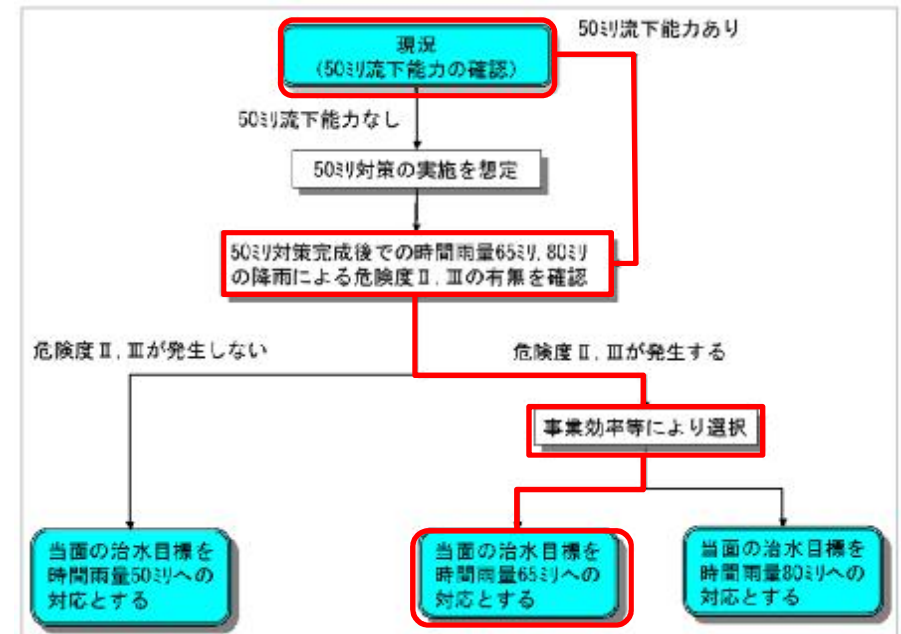
河川整備計画の目標

洪水対策

- I 当面の治水目標（今後30年程度）
 - p 時間雨量65ミリ程度の降雨で床上浸水以上の被害を防ぐ。
- I 石津川水系の当面の治水目標
 - p 石津川：時間雨量65ミリ程度
 - p 和田川：時間雨量65ミリ程度

（時間雨量65ミリ程度とは）
30年に1度程度発生する恐れのある雨量
石津川流域では、時間最大雨量59.0mm

※百済川、百舌鳥川、甲斐田川、陶器川、妙見川については、現況において府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の目標を確保できている。



当面の治水目標設定フロー

ただし、

★当面の治水目標達成後も局地的な集中豪雨や計画を超える規模の豪雨等により浸水リスクは残る

★河川整備には長期間を要し、整備途中でも洪水リスクがある

④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川整備計画の目標

地震・津波対策

- Ⅰ 河口部の護岸・堤防について、海溝型のL2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないようにする。
- Ⅰ L1津波を超える津波に対しては、津波が天端を越流した場合であっても、護岸・堤防等の河川管理施設が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、同施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らす。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- Ⅰ 今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全

- Ⅰ 人と川との関わりや多様な生物の生息・生育環境に十分留意するとともに、「みどりの大阪推進計画」等の計画と協調しながら地域が主体となった河川空間づくりを一層推進し、良好な河川環境、景観の形成に努める。
- Ⅰ 石津川水系の諸河川は、地域に憩いと安らぎを与える貴重な空間であることから、地域住民と連携して、身近な自然環境にふれあえる水辺空間を創出する。
- Ⅰ 水質については、環境基準の達成はもとより、多様な生物の生息・生育環境の保全、良好な景観の確保に向けて堺市、地域住民、学校等と連携し、更なる水質改善に努める。
- Ⅰ 生物多様性の保全のため、外来種の繁茂・繁殖等により生態系に悪影響を及ぼすような場合は、外来生物法に基づき関係機関と連携して対応に努める。

④ これからの石津川流域での取り組みについて

計画対象区間、期間

計画対象区間

- Ⅰ 石津川水系の二級河川指定区間
- p 洪水対策：石津川、和田川
- p 地震・津波対策：石津川
- p 維持管理等：石津川水系の二級河川指定区間

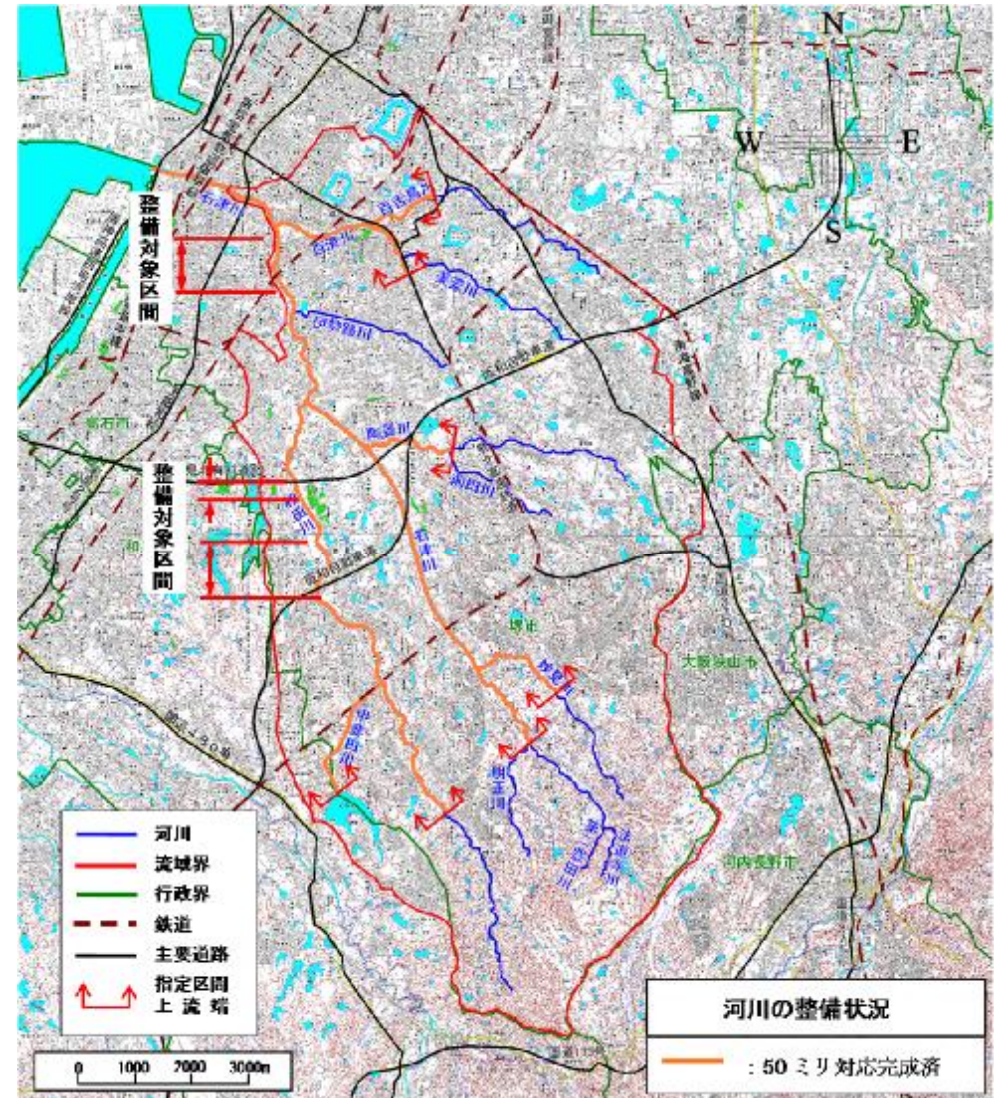
※百済川、百舌鳥川、甲斐田川、陶器川、妙見川については、現況において府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の目標を確保できている。

整備対象区間（洪水対策）

河川名	整備対象区間	整備延長
石津川	宮本橋～平岡大橋 (2.9km～3.9km)	約L=1.0km
和田川	宮川橋～南川橋 (2.1km～2.3km)	約L=0.2km
	鳩塚橋～赤坂橋 (3.1km～4.0km)	約L=0.4km

計画対象期間

- Ⅰ 計画策定から概ね30年



整備対象区間平面図（洪水対策）

④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川整備の内容

①石津川

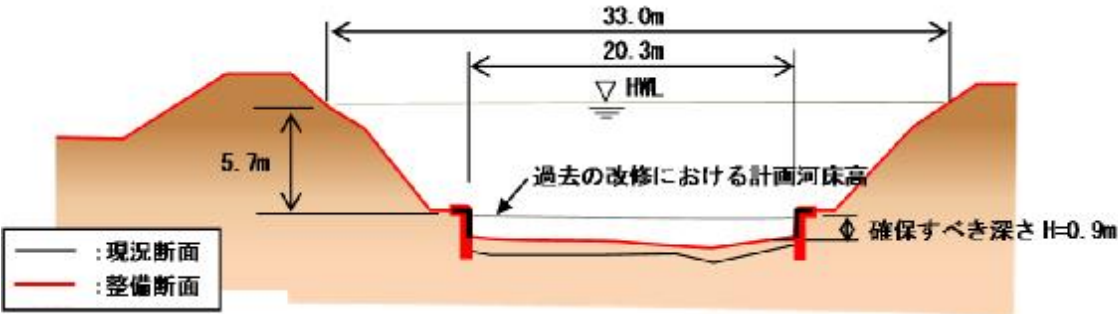
石津川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

- 河床掘削により流下能力の向上を図る。
- 整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。
- 老朽化対策や河床低下対策を併せて行う必要がある区間については、河川特性を考慮し、適正な河川断面を検討のうえ整備を行う。



整備対象区間平面図

石津川（宮本橋～平岡大橋区間）
整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=1.0km



整備断面例（3.9km地点）

※当該区間では、過去の河川改修により時間雨量50ミリ程度の降雨に対応した整備が完了しているが、河川特性による河床低下が著しいため鋼矢板の継ぎ手の開きや腐食などが発生している。また、当面の治水目標に対応した計画河床高を下回る程に河床低下が進行している箇所もことから、整備にあたっては、河床変動調査の結果を踏まえ適正な横断形を設定する。

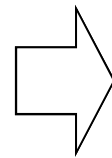
④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川整備の内容

①石津川

整備イメージ

現 況（下田橋より下流を望む）



鋼矢板護岸の改築後イメージ



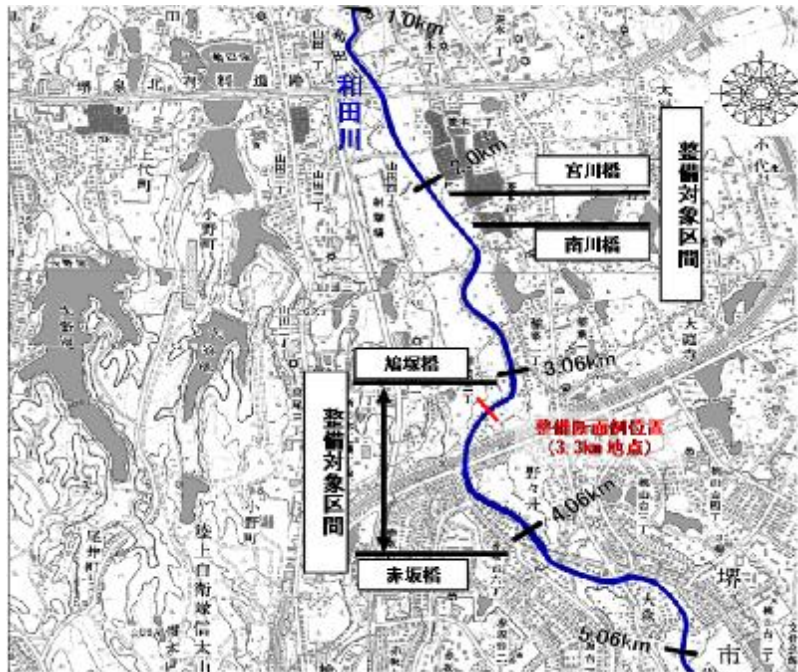
④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川整備の内容

②和田川

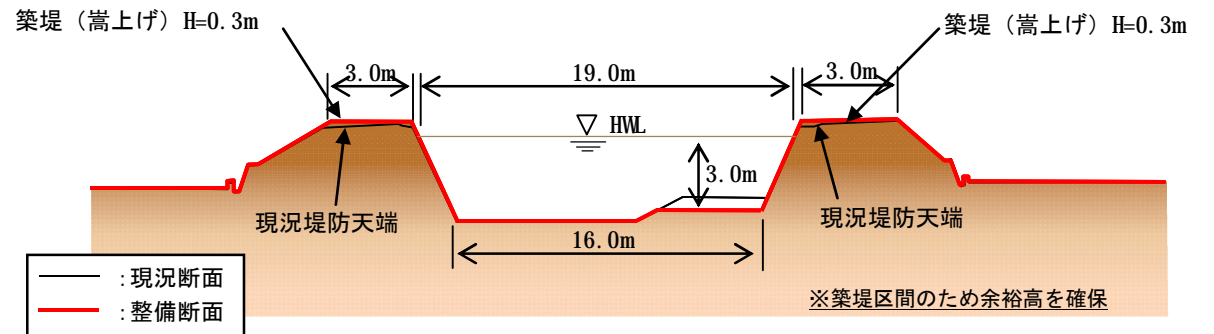
和田川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

- 堤防の余裕高 (H=0.8m) が不足している区間の築堤 (H=0.3m) を行い、浸水被害の解消を図る。



整備対象区間平面図

和田川 (宮川橋～南川橋区間 他)
整備目標：65mm程度、整備延長：約L=0.6km



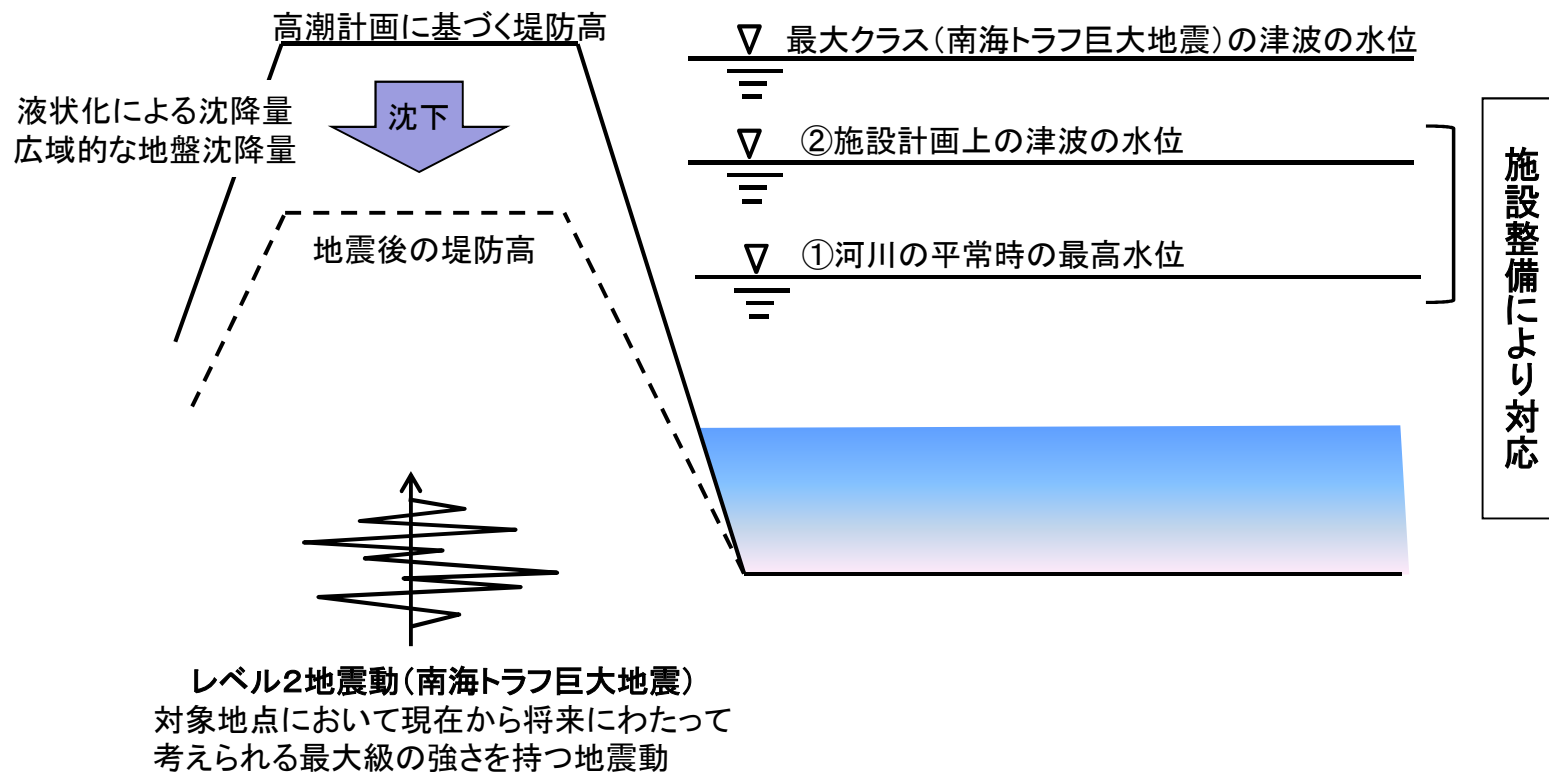
整備断面例 (3.3km地点)

※当該区間では、基準の余裕高 (H=0.8m) が確保できておらず、越水等のおそれがあるため、築堤による嵩上げ (H=0.3m) を行う。

④ これからの石津川流域での取り組みについて

地震・津波対策の内容

- Ⅰ 河口部の護岸・堤防は、L2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないよう護岸・堤防を整備する。
- Ⅱ L1津波を超える津波に対しては、津波が天端を越流した場合であっても、護岸・堤防等の河川管理施設が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、同施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らすといった減災効果が発現できるよう粘り強い構造とする。



④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

- Ⅰ 流水の正常な機能の維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行う。

河川環境の整備と保全の内容

- Ⅰ 利用実態のない井堰の撤去、落差工の改善と合わせて水域の連続性の確保に努める。整備にあたっては、堺市や地域ボランティア等と協力して、水生生物の生息・生育状況の確認や整備効果について予測・検証を行う。
- Ⅰ 石津川は、みどりの風促進区域に指定されており、今後、河川を基軸とした地域ぐるみの緑化を堺市と協力して推進する（河川敷や河川沿いの道路、民有地等における樹木、草花、地被類等による植栽による、良好な河川環境の整備）。
- Ⅰ 地域に憩いと安らぎを与える貴重な空間として身近な人と自然のふれあえる空間を創出する。
- Ⅰ 関係市町の環境部局における行政指導や下水道施設等による水質改善を行う。
- Ⅰ 地域住民や学校、NPO等と連携したヨシ等の植生の保全・再生等により河川が持つ自然の浄化能力を向上させるなど、環境学習の一環とした取り組みによる水質改善に努める。
- Ⅰ 河口部のヘドロについて、水質汚濁の軽減、河川の氾濫防止、河床の安定化を図るため、浚渫などの対策を堺市下水道部局と連携して実施する。



上下流の連続性の確保



取り組みイメージ（芥川）



石津川河口部

石津川を基軸とした緑化（みどりの風）の取り組み

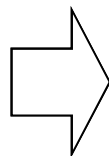
④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川環境の整備と保全の内容

落差工の改善による水域の連続性の確保

既設落差工に魚道を設置した施工例

現況（石津川 宮本橋上流 四手井湯堰）



魚道設置後の状況



④ これからの石津川流域での取り組みについて

河川の維持管理

- Ⅰ 河川管理施設 ⇒ 構造物の損傷、劣化状況等の把握に努め、補修箇所の優先順位を定めて計画的に補修を行う。また、河道特性や河川管理施設の情報を整理・蓄積し、河川カルテを作成するとともに維持管理計画を策定して、計画的かつ効率的な維持管理を行う。
- Ⅰ 土砂の堆積・植生の繁茂等 ⇒ 状況を定期的に調査し、阻害率の高い区間を把握するとともに、地先の危険度等を考慮して計画的に土砂掘削等の対策を行う。
- Ⅰ 河床低下 ⇒ 流域全体における河床変動調査を基に河道の動的平衡状態を維持するための対策に取り組む。
- Ⅰ 許可工作物 ⇒ 井堰や橋梁等、河川管理者以外が管理を行う許可工作物については、施設管理者に対して河川管理施設と同等の点検・補修を行わせるなど、河川の疎通能力を低下させないよう適正な維持管理を指導する。
- Ⅰ 河川空間 ⇒ 定期的に河川パトロールを行うとともに、地域や関係機関との連携によって監視体制を重層化する。また、地域住民、NPO、自治体等と協働で河川美化活動を行うことにより地域住民等の意識を高め、ゴミのないきれいな河川空間の維持に努める。



河川の維持浚渫



河川巡視



ボランティアによる河川清掃

④ これからの石津川流域での取り組みについて

地域や関係機関との連携

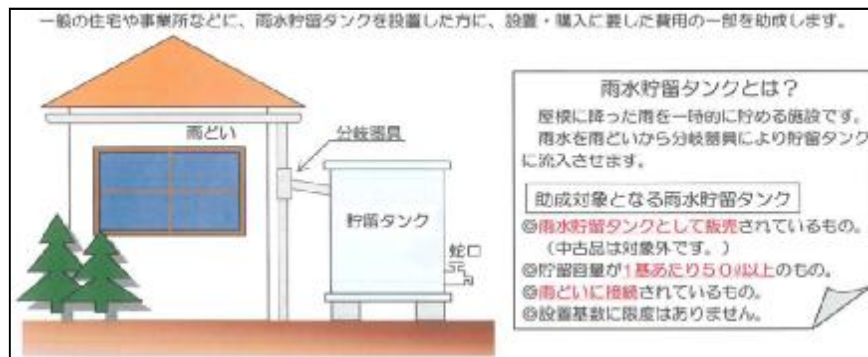
- Ⅰ ため池の雨水貯留機能の保全やため池管理者に対して大雨に備えるための水位低下の呼びかけを実施
- Ⅰ 地域住民に対する各戸貯留による流出量低減に関する意識向上の啓発活動の推進
- Ⅰ 地域住民の代表者で構成される石津川流域交流会議の実施による情報共有および地域での取り組み支援
- Ⅰ 地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」等、さまざまな地域活動を促進するための支援
- Ⅰ 多様な主体との協働・連携を図り、水と緑に親しみ文化にふれあう空間づくりの推進



ため池の雨水貯留機能の保全と活用



石津川流域交流会議の様子



出典：堺市パンフレット

雨水貯留タンク設置助成交付制度（堺市）



大阪府アドプト・リバー認定式典
(平成19年3月22日)

⑤ 洪水リスク図と防災情報について（洪水リスク開示）

河川情報の提供

- Ⅰ 河川氾濫や浸水に対しては、住民が的確に避難行動をとれるよう、関係市町と連携した情報提供に努める。
- Ⅰ 情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、過去の浸水被害の情報等の聞き取りなどを行い、地域特性に応じた情報の双方向伝達システムの構築に努める。

- ① 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
- ② 必要な情報の提供及び伝達
- ③ 住民の防災意識の醸成

具体的な取り組み

- ① 様々な降雨による地先の危険度をわかりやすく周知する洪水リスク表示図の作成及び公表
- ② 地域単位でのワークショップの開催等による地域住民へ洪水リスクの周知
- ③ 過去の災害実績や避難経路の確認（防災マップ作成、簡易型図上訓練等）
- ④ 住民が自ら行動できる避難体制づくり（自主防災組織の設立、防災リーダー育成等）



まち歩きの状態



手作りハザードマップの作成風景

⑤ 洪水リスク図と防災情報について（洪水リスク開示）

洪水はん濫・浸水の危険性の周知

現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、大津川水系では洪水リスク表示図を開示しています。

この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度（約1/10）、時間雨量65ミリ程度（約1/30）、時間雨量80ミリ程度（約1/100）、時間雨量90ミリ程度（約1/200）降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度（3段階）、最大浸水深（7段階）の2パターンで表示します。

洪水リスク表示図

【大阪府 洪水リスク表示図】

<http://www.river.pref.osaka.jp/>

家にパソコンがなくても、大阪府鳳土木事務所で閲覧できます。



※地先における河川氾濫や浸水の可能性を確認できます。



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

⑤ 洪水リスク図と防災情報について（洪水リスク開示）

大阪府などによる情報提供

大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしています。

防災情報

【おおさか防災ネット】

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

【大阪府都市整備部河川室 河川防災情報】

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



石津川流域の雨量、流域内主要河川の水位状況を確認できます。



防災情報を携帯電話で入手できます。
下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
touroku@osaka-bousai.net



川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://i.river.go.jp/>
直接アクセスしてください。



大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>
直接アクセスしてください。

